

札幌くらぶ

【編集・発行/札幌くらぶ】 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付
 メール：info@sakkyoclub.net
 ホームページ：http:sakkyoclub.net/sakkyoclub/

2014. 1

65



第7回JOFC総会 in 仙台'13の報告

平成25年11月23日(土)、第7回JOFC総会 in 仙台13が日立システムズホール仙台(旧仙台市青年文化センター)エッグホールで開催され、札幌くらぶからも10名が参加しました。

JOFC(日本プロオーケストラファンクラブ協議会)は、札幌くらぶの提唱によって2006年11月に札幌において設立会議を開催し、設立されました。当初は、札幌くらぶ、仙台フィルハーモニークラブ(以下「SPC」と称す)、山響ファンクラブ、郡響を応援する県民の会(後に「群響ファンズ」と称す)、広響フレンズの5団体が参加、その後、名フィル・ファンクラブ、石川県立音楽堂楽友会が参加して7団体に、そして今回、都響倶楽部がオブザーバーで参加しました。

総会は、長島SPC会長の歓迎のあいさつ、加藤山響ファンクラブ顧問の開会あいさつで始まり、仙台フィルハーモニー管弦楽団佐藤専務理事、パスカル・ヴェロ常任指揮者の来賓あいさつがあり、続いて、今回のテーマ「会員拡大と結果」「オーケストラ事務局との係わり方」及びSPCが設定した「ホール内の活動」について、広響フレンズ、名フィル・ファンクラブ、石川県立音楽堂楽友会、都響倶楽部、群響ファンズ、山響ファンクラブ、SPC、札幌くらぶの順で報告がありました。

報告では、クラブ会員の拡大やファン層の拡大などで苦心している現状が浮かんできます。多くのファンクラブがオーケストラ事務局



活動報告をする武藤事務局長



総会会場のエッグホール

仙台宣言

私たちは2011年3月11日、未曾有の大震災に見舞われました。生きるために必要なもの、当たり前にあったものが消え、明日へ希望も失われてしまいました。

暗闇に明かりが灯り始めた頃、オーケストラは動き出しました。悲しみや恐れそして傷付いた心に寄り添う優しい音色は、やがては人々を励まし生きる希望を呼び戻す心強い音色へと広がって行きました。音楽に耳を傾ける余裕の無かった人々も、いつしか心を満たすために集まって来るようになりました。

困難な中でも「音楽の力」の持つ素晴らしさを信じ、人間がより人間らしく生きていくためには「音楽」は欠かせないことを、勇気をもって証明してくれたオーケストラを心より誇りに思います。

「音楽の力」を信じ、ファンクラブを通じてオーケストラを全力で支え、ともに歩み続けることをここに誓います。

2013年11月23日

日本プロオーケストラファンクラブ協議会

局との連携が重要であり、ファンの集いや団員さんも参加するミニコンサート・おもしろセミナーの開催、ファンズシートの設置などによってファンクラブ会員や定期会員の拡大につなげていること、会報の充実やホームページ、口コミ活動が報告されました。

仙台宣言の採択では、「東日本大震災が起き、生命、生活という

に体験した私たちには、一生忘れられないものになりました。

全国のオーケストラ、そしてファンクラブの皆様から、たくさんのご支援をいただいたことは、被災者並びに音楽に携わる方々はもちろん、私たちファンクラブにとっても感激そのもの

「音楽」以前のもので消え始めていたとき、仙台フィルは、まず被災者の「心」を取り戻す演奏活動を始めました。それが、どれだけ貴重で感動的だったものか、実際に

でありました。」との趣旨の説明があり、全会一致で「仙台宣言」が採択されました。

続いて、次回開催地を山形とし、東海林山響ファンクラブ会長から、「来年11月23日に山形にきてください。お待ちしております。」と受託のあいさつがあり、小野群響ファンズ会長の閉会のあいさつで2時間30分に及ぶ会議は閉会し、全員で記念撮影をしました。

(札幌くらぶ副会長 西川吉武)



総会終了後、参加者全員で記念撮影(エッグホールにて)

2月～4月の定期・名曲シリーズ演奏会 演奏会を楽しく聴くために

八木 幸 三(札幌くらぶ会員)

森の響フレンドコンサート

札幌名曲シリーズ Vol.5

「ロシア・作曲家たちのプロムナード」

2月8日(土) 15:00

札幌コンサートホール大ホール

指揮/ロッセン・ミラノフ

ピアノ/ニコライ・ホジャイノフ



ロッセン・ミラノフ



ニコライ・ホジャイノフ

©Trenyuki Yoshimura

■バルトック/ルーマニア民俗舞曲

ルーマニアと言うとドラキユラ伝説を生んだドラキユラ伯爵や独裁政権の末路が生々しく記憶に残るチャウシエスクの銃殺場面を想起する方もいるだろうが、この作品はルーマニア民族の精気な生命

力がほとばしるような楽想を持つ楽しい音楽だ。バルトックは、コダーイと共にハンガリー民謡を採譜し自分の作品に多く採り入れているが、採譜当時ハンガリー領であったトランシルヴァニアの山地に住むルーマニア人の民族音楽を用いてこの曲はつくられた。元々はピアノ曲だが、小管弦楽やヴァイオリン曲としても有名で弦楽合奏、さらに吹奏楽にまで編曲されている。

■チャイコフスキー/ピアノ協奏曲第1番変ロ短調

数あるピアノ協奏曲の中でも、これほどポピュラーな作品はグリーグやラフマニノフの第2番くらいだろう。それほど万人に親しまれている曲なのだが、初演時には、当時の名ピアニスト、ニコライ・ルビンシュタインに酷評された。もともとチャイコフスキーは、ヴァイオリン協奏曲も初演時には演奏不可能と酷評されていて、批評だけで挫折することはなく、後に2度の大改訂をおこない、ルビンシュタインも積極的にこの曲を演奏している。チャイコフスキーの甘美な旋律は、ベートルヴェンなどを好む辛党には敬遠されがち

だが、ロマンチックな甘党にはたまたなく魅力的な一品。
■「リャードフ/交響詩「バーバ・ヤガー」」
チャイコフスキーやロシア5人組の伝統を受け継いだリャードフは、ロシアの民族的意識を西洋の音楽書法にのせ、管弦楽作品をはじめとする多くの作品を残した。この「バーバ・ヤガー」は、ロシア民話に出てくる妖婆が題材で、ムソルグスキーの「展覧会の絵」の中にも登場する。この妖婆が森の中で鶏の足の形をした小屋に住み、白にまたがり杵を手にして走り回り、ほうきで足跡を消しながら森の中に姿を消してしまう様子は、どこかジブリ・アニメに出てくる魔女の一場面を見ているかのようだ。

■ムソルグスキー(ラヴェル編曲) /組曲「展覧会の絵」

この曲は、作曲者が親友であった画家の遺作展を訪れたときの印象がもとになって生まれた作品で、ピアノ独奏作品として1ヶ月足らずの短期間で1874年に書かれた。ムソルグスキーの生前中は演奏されなかった原曲が、リムスキー・コルサコフにより改訂さ

れ、コルサコフの弟子が管弦楽化しているが、1922年、原曲から半世紀を経てラヴェルが編曲した版が最も良く演奏されるようになった。まるでリレーのようにこの作品は受け継がれ、また多くの作曲家が協奏曲やポピュラー曲などに編曲しているが、ムソルグスキーの原曲の魅力が形を変えても生き続けている証でもある。

第567回札幌定期演奏会

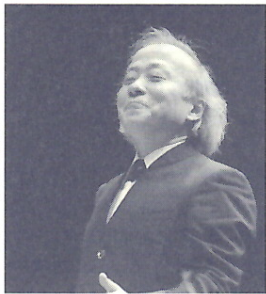
シベリウス交響曲シリーズ Vol.2

2月28日(金) 19:00

3月1日(土) 15:00

札幌コンサートホール大ホール

指揮/尾高忠明



尾高忠明 ©浦野俊之

■シベリウス/組曲「恋人」

シベリウス作品は、冷たい空気の中に深遠なロマンティズムを感じさせる作品が多いのだが、この作品もそんな一品ではないだろうか。元々、フィンランド民謡の中にカンテラルという種類があるが、その中から3編を選び男声合唱曲として作曲された。第1曲は

「愛する人」。原曲の歌詞は「私の愛する人はどこ? もし、その人が通ったら牧場は欲びに溢れるだろう」。第2曲は、前曲の応答で「愛する人の道」。第3曲は、「おやすみなさい:さようなら」で、原曲には「こんばんは私の小鳥、こんばんは私の愛する人」という歌詞が付いている。

■シベリウス/交響曲第4番

シベリウスの7つの交響曲の中でも第4番は特異な雰囲気を持つ作品だ。それまでの美しい旋律を基調とするロマン的傾向は影を潜め、断片的な動機が展開されながら深みのある、ほの暗い色調が全楽章の基盤となっている。1911年にこの曲は書かれているが、その数年前にシベリウスは、咽喉に悪性腫瘍を発症している。ベルリンで名医の執刀を受け危機を脱することはできたが、葉巻や酒と云った彼の嗜好は禁じられた。さらに癌の再発という恐怖は、彼を日々苦しめ続けたことであろう。そうした苦悩が、この第4番に反映されていることは確かだ。そして、このことが作品自体に厳しさを与え、管弦楽法を含め簡潔化、凝縮化した傑作を生み出した。セシル・グレイは「最初から最後まで余分な音符がひとつもない作品だ」と賞賛した話は有名だ。

■シベリウス/交響曲第2番

筆者は、北欧へはスウェーデンまでしか行ったことがなく、フィンランドの豊かな自然に触れたことがないのだが、なぜかこの曲を聴くと、その特異な風土の感覚に浸ることが出来る。たぶんフィンランドのイメージが北海道の清澄で冷たい外気と重なるからなのだろうか。それほどに北欧らしい雰囲気を持った交響曲第2番なのだが、シベリウスはこの曲のほとんどを旅先であるイタリアのラパッロとフィレンツェで書いている。その滞在地は、暖かな太陽の日差しを受けた温暖な保養地だったようだ。しかし、フィナーレのコーダが発想のきっかけでつくられたこの作品は、彼の交響曲の中でも北欧の風土を内在させた、最も親しまれている作品であることに間違いはないだろう。

第568回札幌定期演奏会

4月11日(金) A日程19:00

4月12日(土) B日程14:00

札幌コンサートホール大ホール

指揮/ラドミル・エリシユカ



ラドミル・エリシユカ ©野口隆史

■ベリリオズ／序曲「ローマの謝肉祭」

ベリリオズの作品を10個上げると言われると意外と出ない。「幻想交響曲」は別格として彼の作品はあまり知られていない。彼は劇音楽や歌劇もいくつか残しているが、序曲「ローマの謝肉祭」は、歌劇「ベンヴェヌート・チェルリ」

の第二幕のための序曲として1844年に作曲された。普通、序曲と言うと第一幕がはじまる前に演奏され、各幕間には、前奏曲か間奏曲が演奏されるのだが、ロマン派作曲家ベリリオズは、第二幕の前に大きな序曲を置くという大胆な試みをした。さらにこの序曲は大変に優れており、やがて独立した序曲として「ローマの謝肉祭」と呼ばれるようになった。彼は6曲の序曲を残したが、この曲が最も有名になっている。曲は、オペラの素材を巧みに用いて、イタリア民俗舞曲サルタレッコにより熱狂的な盛り上がりを見せる。

■ヴォジーシエク／交響曲二長調

客演首席指揮者エリシユカは、これまでドヴォルジャークをはじめとするチェコ音楽の神髄を札幌の音で伝えてくれているが、ヤン・ヴァーツラフ・ヴォジーシエクというちょっと聞き慣れない作曲家の作品が登場。彼は、1791年生まれのチェコの作曲家でベートゥヴェンとも面識があり、古典

派的な作品を残したのだろう。晩年はウィーン楽友協会の会員として、また宮廷オルガン奏者として活躍したが、肺結核のため34歳という若さで亡くなっている。作品にはピアノ曲や室内楽曲があるが、この交響曲は筆者がはじめて出会う作品だ。

■チャイコフスキー／交響曲第6番「悲愴」

チャイコフスキーは、「私は自分の創作の最後を飾るような雄大な交響曲を作りたい欲望に駆られている」と第6番を書き始め、完成したときに「私の一生で一番良い作だ」と言い残した。確かに作曲者の最高傑作のひとつなのだが、終楽章はアダージョ・ラメントーンで悲しみを秘めながら曲は閉じられ「その標題は主観的なもので、私はこの曲を頭の中で作曲しながら、しばしば涙を流した。」という謎めいたことを言っている。1978年、旧ソ連の音楽学者オルロヴァ女史の論文でチャイコフスキーがホモセクシャルで、ある侯爵の甥と特別な関係にあったことが知れ、同性愛者を忌むべき犯罪とした帝政ロシアが秘密法廷による弾劾裁判で彼に死を求め、自殺を強要したと言うのだ。これが真実だとしたらこの曲は、完成直後に亡くなった作曲者の遺書なのかもしれない。

(写真協力/札幌交響楽団)

札幌物語 64

札幌の50年を振り返る(7) 練習場(4 真駒内時代)

竹津 宜男 (札幌くらぶ会員)



真駒内青少年会館のホールが札幌の練習場だった頃、常任指揮者P・シユヴァルツが正指揮者岩城宏之に代わり、コンサートマスター市川映子が誕生し、ヴィオラ首席に西川修介が就任。また、トランペットの首席奏者に杉木峯夫(フランスのモーリス・アンドレの日本人最初の弟子、東京芸術大学教授)が入団した。間もなく日本一の金管セクションと言われる時代を迎える。その後、トスカニ二のNBC交響楽団のコンサートマスターを務めていたルイ・グレエラーがコンサートマスターに就任したり、札幌が大成を遂げた時代でもあった。大阪の「ザ・シンフォニーホール」のこけら落としに出演して「もし、札幌が出演していなかったら音響設計の変更を要求されていたかも知れない。札幌のお陰で音響の優れたホールと言われることが出来た。」と音響設計を担当した音響学の権威、東大の石井聖光教授に大感謝された時のコンサートマス

ターは市川映子だった。ヴィオラ首席の西川修介は、岩城宏之の指揮でベリリオズの「イタリアのハロルド」のヴィオラ・ソロの名演を聴かせた。

ルイ・グレエラーの就任は、札幌に来演する外人指揮者には大きな脅威だったらしく、グレエラーがトスカニ二NBC交響楽団(トスカニ二没後はシンフォニー・オブ・ジ・エア)のコンサートマスターを務めていたことを知っているベテラン指揮者は、演奏終了後に「緊張したよ」と言うことがあった。札幌の団員にはなにも要求しない優しいコンサートマスターだったが、指揮者には結構厳しい注文もつけていたようだった。グレエラーは、契約の関係で原則的に地方公演や学校での音楽鑑賞教室には出演しないことだが、子供の教育にはとりわけ関心が強く音楽教室にも出演したい、と何度も言われた。実際、地方公演の途中で行われる音楽教室では、生徒席の一番後ろに座って楽しそうに聞いていた。高価な楽器と弓(世界でも数少ないトル

テと言う弓で5千万円もする。)を持っていたが、いつも安っぽいケースに入れて自動車の後ろへ放り込んでいた。グレエラーは「こうやって雑に扱っていると誰もこ

れが高価な楽器だと思わないから良いんだ。」とケロツとしてトランクに入れていた。トルテについては、名器ゲアルネリ・デル・ジェスを持って第194回定期(指揮・井上道義)で、モーツァルトのヴァイオリン協奏曲第3番を弾いた韓国出身のヴァイオリニスト、ヤン・ウク・キムがステージ練習の後、トルテを借りて弾いてみたら楽器の鳴りが余りに素晴らしく演奏会の後で「これは非譲って下さい」と熱心に頼んでいた。

札幌が初めて商品のLPをレコーディングしたのも青少年会館で、福田一雄が指揮した小品集だった。何年か後にこのレコード会社の担当者から「あのレコードでは学校の鑑賞教材としてずいぶん稼がせていただきました。」と言われたものだ。また、岩城宏之のネスカフェの「違いの分かる

男」のテレビコマーションを収録したのも青少年会館だった。大規模な撮影部隊がトラックで到着し「苦小牧へ上陸して来ました。」とまるで外国へ来たような言われ方をしたのが可笑しかった。演奏場面は全て青少年会館で収録し、自宅と言う設定はその後撮影部隊全てが引越して厚生年金会館の北側にあった。どこかの屋敷で撮った。夜中なのに照明で昼間の場面を撮影したり午前3時頃まで続いた。スタッフと一緒に美味しい豚汁をご馳走になった。

真駒内青少年会館は札幌の練習場として1986年に「札幌芸術の森」の第一期工事で大練習場が出来たまで約15年間札幌の音を育ててくれた場所である。青少年会館側にとつては、年間100日以上使用して、くれる良い利用者でもあった。「札幌芸術の森」の話が持ち上がった時「まさか出来たら出て行くのではないでしょうね。」と言われたものだ。「札幌芸術の森」は、まさに札幌が優先的に練習出来るための場所として札幌の意見を聞きながら出来た練習会場だった。青少年会館の職員の方々は、親身になって札幌のために相談に乗って下さった。

札幌が初めて商品のLPをレコーディングしたのも青少年会館で、福田一雄が指揮した小品集だった。何年か後にこのレコード会社の担当者から「あのレコードでは学校の鑑賞教材としてずいぶん稼がせていただきました。」と言われたものだ。また、岩城宏之のネスカフェの「違いの分かる

男」のテレビコマーションを収録したのも青少年会館だった。大規模な撮影部隊がトラックで到着し「苦小牧へ上陸して来ました。」とまるで外国へ来たような言われ方をしたのが可笑しかった。演奏場面は全て青少年会館で収録し、自宅と言う設定はその後撮影部隊全てが引越して厚生年金会館の北側にあった。どこかの屋敷で撮った。夜中なのに照明で昼間の場面を撮影したり午前3時頃まで続いた。スタッフと一緒に美味しい豚汁をご馳走になった。

真駒内青少年会館は札幌の練習場として1986年に「札幌芸術の森」の第一期工事で大練習場が出来たまで約15年間札幌の音を育ててくれた場所である。青少年会館側にとつては、年間100日以上使用して、くれる良い利用者でもあった。「札幌芸術の森」の話が持ち上がった時「まさか出来たら出て行くのではないでしょうね。」と言われたものだ。「札幌芸術の森」は、まさに札幌が優先的に練習出来るための場所として札幌の意見を聞きながら出来た練習会場だった。青少年会館の職員の方々は、親身になって札幌のために相談に乗って下さった。

会報への投稿を募集しています

演奏会を聴いた感想、交流会や礼響くらぶサロンに参加した感想、クラシック音楽に関する思い出、好きな曲・思い出の曲やオーケストラに関する事などの随想、詩や俳句・短歌、会報などに関する投稿を募集しています。特に内容は問いません。

投稿は、ハガキ、封書又はメールで、住所・氏名・会員番号(以上必須事項)・電話番号等連絡先を添えて、「礼響くらぶ事務局」宛お送りください(あて先メールアドレスはページ目のタイトルの下を参照のこと)。

投稿は原則として「実名」でお願いいたします。匿名やペンネームではお受けしておりませんので、ご了承ください。

投稿の期限はありませんが、3月20日、6月20日、9月20日、12月20日までに寄せていただきます。特に内容は問いません。

1月それぞれの月の下旬発行予定の会報に掲載させていただきます。ただし、都合により掲載できない場合があります。その場合は、本人に直接連絡申し上げます。

(事務局長 武藤義典)

10月定期 エリシユカと石川チェロ

聴衆の期待も大であったが、オーケストラ、ソリスト、オーデイエンスが一体となった素晴らしい演奏会となった。

私は、チェロ協奏曲ではドボルジャークが一番の気に入りで、デュ・プレ、ロストロポーヴィチ、ヨーヨー・マ、カザルスなどのチェリストのCDも7・8枚は持っている。キタラでミッシェル・マイスキやペレリニ等の生演奏を聴いたことがあるが、会場全体で三者一体となった今回のような演奏会

は極めて稀である。演奏家と聴衆と一緒に音楽を作り出すことを実感できた貴重な機会となった。

演奏終了後、エリシユカはごく自然体でソリストに頬を寄せて祝福し、大平コンマスの手にキスをすする仕草に会場から笑いも起こった。礼響に親しまれている外国人指揮者ならではの振る舞い。

石川はアンコールに込めて「J.S.バッハの無伴奏組曲第6番から第4曲サラバンド」を弾いた。

(礼響くらぶ 大井輝男)

礼響の第九 すばらしい合唱

日本では12月に入ると各交響楽団が「第九」の演奏を繰り広げるのが恒例になっている。プロのオーケストラや歌手による演奏だけでなく、市民合唱団がオーケストラを従えて「歓喜の歌」を熱唱する。

月刊クラシック音楽情報誌(ぶらあほ)の公演情報を基に演奏の実態を大雑把に調べて見た。

2013年12月の日本各地での「第九」公演予定回数187回(東京・関東90、近畿52、北海道・東北13、中部16、中国・四国7、九州・沖縄9)

プロのオーケストラ/102回、アマチュアのオーケストラ85回

*公演回数が多いオーケストラ/日フィ10回、大阪フィル・関西フィル各8回、読売日響・京都響各7回、東京響6回、新日本フィル、群響・N響各5回

*合唱団主体で第4楽章のみの演奏会も17回(?)は演奏されたと思われる。

「第九」のコンサートは毎年12月に2公演。私は2日目の公演を聴いた。

パリの与那城が「おお、友よ、

Xmas Live Night 2013を聴きに行こう

12月25日(水)午後10時からBAR WADUROにて、礼響ファゴット奏者夏山朋子さんと礼響クラリネット副首席奏者白子正樹さん、ピアノの松本寛之さんのXmas Live Night 2013を聴きに行ってきた。

中に入ると「武藤さん」といくなり声がかかり、見ると夏山さんと白子さんが…。

カウンターの奥の席に座り、まもなく夏山さんの進行で今日は「愛をとどける」をテーマにジャズを演奏すること、期待が高まる。ピアノとのデュオで、最初は夏山さん、続いて白子さんとそれぞれ交代で3曲ずつ、最後の曲とアンコールはトリオで約1時間のライブだった。最初から2曲ずつはアップテンポで、後の1曲ずつはスローテンポな演奏。

普段はクラシックを奏でることが多い二人だが、一杯飲みながらこんなリラックスした、そして贅沢なライブは、特別な人と聴くことをおすすめする。(武藤)

このような音ではなく、私たちはもっと快い、もっと喜びに満ちたものを歌い出そうではないか。」と歌い出した時はゾクッとするほど心に響いた。4人のソリストたちは二期会会員でオペラ歌手として名高い。さすが一流歌手として堂々たる歌いぶりであった。

今回は合唱団のレヴェルの高さに感動した。ヴェテランの領域に

(礼響くらぶ 大井輝男)

《投稿》 コンサートを楽しむために

定期のプログラムに、その曲の演奏暦と初演、前回の演奏がのるようになった。昔から定期を聴いている人達にとって、それは当時の演奏を思い出すとてもいい資料だと思っている。

実は、私も自分のコンサート鑑賞をパソコンに記録している。その日聴いた曲を、作曲家、曲名、演奏者、指揮者、年月日、金額、ホール名の順に表に記入し、作曲家の五十音順に並べて保存。同一の曲の場合は、演奏者の項を複数にして記入している。

きっかけは、五年前から礼響の定期会員になり、他のコンサートと合わせると、年間結構な数の曲を聴くのだが、一度聴いた曲は、私にとっては、記録すること、コンサートを楽しむのひとつなのである。(定政)

こと、しかしそれをプログラムで一から探すのは大変なことだからだ。クラシックに精通している人ならそんな必要は感じないのだろうが、私のクラシック暦はまだまだ浅い。3年前から記録を取り始めたのだが、それが結構役に立っている。

ちなみに、12月の指揮者のアラシ・プリバエフさん。どこか見たことがあると思ったら、案の定2年前、名曲でボレロの指揮をしていた。

コンサートの前に以前に聴いたことがないか調べておくこともできるし、作曲家ごとに並べているので、どの作曲家が多いかもわかる。私にとっては、記録すること、コンサートを楽しむのひとつなのである。(定政)

JOFC in 仙台旅行記

札幌から仙台へ

札幌駅からJRエアポートの始発便乗車、新千歳空港ANA始発便に、11名の参加者のうち8名が搭乗した。他の3名はそれぞれ別便で出発し、総会会場で集合することとした。

仙台空港に定刻より早く到着し、空港連絡線で仙台駅へ、途中、楽天イーグルファン感謝祭へ行く人々のため大混雑で、久々に満員電車を体験した。

総会

仙台駅からは地下鉄を利用して総会会場の日立システムズホール仙台(旧仙台市青年文化センター)に到着、少し早めに着いたため、「カフェレストランけやきの杜」の開店を少し待ってから昼食をとり、3階の総会会場、エッグホールに入り、総会参加の10名が合流した。総会は、定刻どおり開会したが、途中の挨拶や活動報告に予想以上に時間をとられ、質疑応答が省略されたが、定刻を少し過ぎて閉会した。

演奏会

総会終了後、1階のコンサートホールに移動し、仙台フィルハーモニー管弦楽団(以下「仙台フィル」と略称する。)第378定期演奏会、指揮/バスカル・ヴェロ

指揮/バスカル・ヴェロ
シヤプリエ/狂詩曲「スベイン」
サラサーテ/「カルメン」幻想曲 作品25
マスネ/歌劇「ル・シッド」より バレエ組曲
ラヴェル/道化師の朝の歌
ドビュッシー/管弦楽のための「映像」より イベリア
ラヴェル/ボレロ
の6曲を聴いた。

演奏会が終了してホールから出ると、指揮者と全員に近い楽員が並んでのお見送り、7年前にはなかった光景である。

懇親会
日立システムズホール仙台から地下鉄で仙台駅へ移動、そこから徒歩でホテルJALシテイ仙台に行き、宿泊する人はチェックインし、2階の懇親会の会場のロビーの間へ、懇親会は約80人が出席し、仙台フィル有志、小川有紀子(ヴァイオリン)、清水暁子(ヴィオラ)、山本 純(チェロ)、戸田敦(フルート)の4人による歓迎演奏で始まり、長島仙台フィルハーモニークラブ(SPC)会長

の歓迎のあいさつ、西川JOFC幹事長の開会のことは、来賓の奥山仙台市長のあいさつに続いて、武藤JOFC事務局長の乾杯で開宴、しばし歓談し、佐藤仙台フィル事務局長、西本仙台フィルコンサートマスター(札幌出身)のスピーチ、少しおいて、仙台フィル事務局・楽員5名、広響フレンズ4名、名フィル・ファンクラブ4名、石川県立音楽堂楽友会6名、都響倶楽部1名、群響ファンズ1名、山響ファンクラブ16名、札幌

くらぶ10名、仙台フィルハーモニークラブ(SPC)21名の紹介が行われた。

懇親会は、1年ぶりに再会したとは思われない親密さと和やかさで終始し、阿部SPC副会長(ピアニスト)の閉会のあいさつで閉宴し、二次会会場へと移動した。

二次会の会場、仙台駅南に隣接するSパル地下1階DIVERDE P.A.L仙台店に徒歩で移動、50余名が参加、札幌くらぶはここで1名が合流し、11名が参加した。二次会も親密さと和やかさで溢れ、11時少し前で終了、三次会に繰り出したグループと帰途に着いたグループに分かれた。



仙台フィル有志による歓迎演奏



開会のことを述べる西川JOFC幹事長



札幌くらぶ参加者紹介

被災地ツアー(スタッフ 米森宏子) 10月24日午前8時半、参加者約20名を乗せたバスは、小雨降る中、仙台駅前を出発。この日は楽天日本一祝賀パレードが予定されてお

り、沿道にはすでにファンが場所取りを始めていた。バスに揺れること1時間。50余りのテントが連なる「ゆりあげ港朝市」に到着。ここ閉上地区は江戸時代以前から漁港として栄え、伊達政宗が掘らせたとされる日本最長の運河「貞山運河」を使い仙台城下に海産物を運んだという歴史がある。朝市は約30年前から町を活気づけるイベントとして日曜・祝日に開かれていた。震災後は自販店を失った出店者の生活を支える貴重な収入

源となっている。会場内にカナダ政府からの震災見舞いとして建てられた「メイプル館」にて赤裸々に津波の恐ろしさを捉えたDVDを視聴する。朝市協同組合の櫻井理事長の臨場感溢れる説明に一層胸が締めつけられた。

朝市会場を後に、震災で全壊した閉上湊神社が遷座した日和山富士姫神社へ。復興祈願と鎮魂の思いが込められた二つの神社が小高い丘から被災地を見守っていた。

続いて、仙台市若林区荒浜へ。小雨上がり小春日の砂浜沿いに「東日本大震災慰霊塔」が建つ。かつての海水浴場は津波と共にその夏の賑わいも流されてしまった。その後の昼食の牛タンが微かに塩辛かったのは気のせいだろうか。



ゆりあげ港朝市



閉上湊神社



東日本大震災慰霊塔

仙台から札幌へ
昼食後、バスは仙台空港に向かい、札幌くらぶ8名は仙台空港で下車、被災地ツアーの一行と別れを告げ、札幌への帰途に着いた。バスは予定より早めに着いたので、予定の便より1便早めようとしたが、変更のできないチケットであったため、空港内で仙台名物の牛たんなどのお土産を購入したり、レストランでビールなど飲みながら過ごしたが、話が弾みアツという間に出発の時間となり、新千歳空港に向かい、到着後解散した。(事務局長 武藤義典)

澄んだ音と2階席と

10月18日 大森潤子さんのリサイタルに行ってきた

「チケットがあるので、一緒にいきませんか？ 澄んだヴァイオリンの音が楽しめますよ。」

ある人からのお誘いを受けて、2013年10月18日、大森潤子さんのヴァイオリンリサイタル「パリのオマージュ」に行ってきた。場所は、キタラの小ホールでした。

その人は、「小ホールは、2階席がいいんですよ。」と私を右側2階席の中央に連れて行ってくれました。確かにその席からは、大森潤子さんだけでなく、ピアノの藤原亜美さんの演奏する様子が正面から見る事ができ、「2階席の良さ」は、なんとなくわかりました。フランスの作曲家のみならず、「パリに所縁のある名ヴァイオリニストたちにも思いを馳せて」（当日のプログラムより引用）選ばれた演奏曲は、ルクレールの「ヴァイオリンソナタ長調 op.93」、ベートーヴェンの「ヴァイオリンソナタ第9番長調『クロイツェル』 op.47」、サラサーテ「序奏とタラントラ op.43」、アンゲルシアの「ロマンズ op.29-1 サパテアード op.23」、サン＝サーンスの「ヴァイオリンソナタ第一番二短調 op.75」です。クラシック音楽を聞くように

なっているの浅い私にとっては、初めて聞く曲ばかりで、当日の演奏の素晴らしさを読者のみなさんにお伝えしようもないのですが、「澄んだヴァイオリンの音」が、時には直接には、時には心地よく響いて、耳に届く感覚がありました。

11月10日小雨の降る風の冷たい日曜日、北方圏学術情報センター PORTO・ポルトホールで開催されました。

ポルト市民講座

PORTOレクチャー・コンサート

メンデルスゾーンの室内楽を中心に

この日は入院中の先輩のお見舞いで札幌医大から、午後3時開演のコンサートに行きました。キタラで聴く事が多い私は、ポルト市民講座レクチャー・コンサートは、どんなコンサートかな？ とパンフレットを開くと特別講師、特別演奏者に「札幌交響楽団の著名なチェリスト文屋治実さん、期待の若きヴァイオリン奏者岡部亜希子さんを迎えて」とあり、開演を待ちました。

当日はメンデルスゾーンの室内楽を中心にと副題があり、主催者の鈴木しおり北翔大学芸術メディア

パリに行ったことがなくても、2階席の良さを知らない私にも、幸せな2時間を与えてくれたリサイタルでした。（岸田）



大森潤子さんと筆者

されて、なるほど市民講座レクチャーコンサートと納得。

この日の演奏は、ピアノ演奏法の研究をしている丹野隆広さん、千葉圭准教授指揮による北翔大学チューバ・ユニホニアムアンサンブル、音楽教室講師の鈴木亜弥さんソプラノ独唱そして札幌交響楽団岡部亜希子さんの無言歌集より「春の歌」ヴァイオリン独奏、文屋治実さんの無言歌集より「子守歌」チェロ独奏があり、休憩の後ピアノ三重奏作品49二短調第一

楽章から第4楽章まで鈴木しおり教授のピアノ、文屋治実さんのチェロ、岡部亜希子さんのヴァイオリンで演奏され、またお客様の

アンコールにも心安く応じていただきました。

終演後にヴァイオリン奏者岡部亜希子さんのサイン入りCD即売をステージでされ多くの方が購入されていました。

寒い日のためか広いポルトホールは6割程でしたが拍手の止まぬコンサートでした。F・メンデルスゾーンは38才の短い生涯で最期の言葉は「疲れたよ、ひどく疲れた…」だったそうです。

この日お見舞いした先輩はこの原稿脱稿時に79才で故人となられました。想い出深いコンサートになりそうです。（朽木）

札幌アマデウス室内合奏団 創立10周年記念演奏会

札幌アマデウス室内合奏団の創立10周年記念演奏会を聴きに行ってきました。10月6日（日）16時よりザ・ルーテルホールでの開催です。指揮は佐川由紀緒さん、独奏者としてヴァイオリンの佐川ゆみ子さんとチェロの藤田淳子さんと札幌交響楽団第一ヴァイオリンの河邊俊和さんの3人が出演しました。

「ファンタジア」の3曲、後半が「ヴァイオリンとヴァイオラとオーケストラのための協奏交響曲」でした。前半3曲は若い時の作品から最晩年の作品まで、コミカルでおどけた作風からフーガまで大変楽しめました。後半1曲は3楽章からなる30分以上の大曲で、今回はオーケストラの管楽器パートをチェロで演奏する弦楽器のみのアレンジ版でしたが、まさに弦楽三重奏協奏曲？ と言う感じです。特に第1楽章から河邊俊和さんの

ヴァイオリン独奏が素晴らしく、ヴァイオラやチェロと掛け合いながら躍進していく場面は思わず自分の身体が大きく揺れていた様な気がします。 今回の演奏会のように、アマチュア室内合奏団にプロの独奏者が加わる演奏会は、とても大きくて深い意味のある事だと思えます。本番中の音が大きく変わる事はもちろんですが、そこに至るまでの練習中のプロの指導による深い研鑽や経験なども、参加しているアマチュアの音楽家の方々の励みになるのではないのでしょうか。 中学・高校の吹奏楽部やジュニアオケや学生オケなどのコンサートも好んでよく聴きに行きますが、それはきっと高校野球ファンが沢山いるのと同じような理由や理屈があるのかもしれない。 予定されていたプログラム終了後のアンコールにモーツァルトの「ディベルティメント」の中から1曲演奏され、その時は今まで前列にいた独奏者3人が後列に下がってオリジナルメンバー中心による演奏になりました。その後指揮者の佐川さんからのご挨拶とモーツァルトに対する強い想いのお話も加わり、札幌アマデウス室内合奏団の誇りを感じました。 普段はあまり聴く事の出来ない曲も聴けて、大変楽しめた素晴らしい演奏会でした。（上野）

Xmasパーティー開催

今年も12月の定期公演の終了後にクリスマスパーティーが開催されました。昨年からのキララレストランでの開催となり、大きな窓からの眺めが抜群。周りの木々がクリスマスツリーのように素晴らしいシチュエーションです。

総勢40人ほど、札幌からは小沢専務理事をはじめ、トランペットの前川さん、打楽器の大垣内さん、ヴァイオリンの河邊さん、土井さん、ピアノの青木さんが参加してくださいました。会員では、顔なじみが多い中で、初めて参加される方もいらっしゃいました。

上田会長の挨拶の後、楽譜支援金贈呈のセレモニーがありました。今年も無事50万円を贈ることができ、札幌くらぶってすごいなあと自画自賛。小沢専務理事のご挨拶の後、前川さんの乾杯でにぎやかにパーティーが始まりました。

会場の真ん中の大テーブルにはたくさんの料理が並び、立食ながら周囲には十分な椅子が並べられ、小テーブルもいくつかあります。そこで、会員同士、また団員さんを囲みながら話に花が咲きます。前川さんの還暦の話に驚いたり、初めて参加の青木さんを質問攻めにしたり、またサインや写真

撮影など思い思いにパーティーを楽しみうちに、会も中盤。団員さんのコンサート情報や来年の東京公演のおっかけツアーの案内の後、恒例のビンゴゲーム。山響ファンクラブ保科事務局長から提供された山形賞はじめ景品もたくさんあり、大いに盛り上がったところでパーティーもお開きとなりました。あつという間の楽しい2時間でした。

年2回、5月の総会と12月の定期の後に開催される交流会。会員同士、また、会員と団員さんの交流の輪がもっともっと大きく広がってほしいと願っています。
(定政)

Xmasパーティー写真集



写真：上列／上田会長（右）、小沢札幌専務（中）、土井さん（Vn.）、下列／青木さん（右、Vla.）、河邊さん（中、Vn.）、定政事務局次長（右）



写真：右から前川さん（Tip.）の乾杯の音頭で開宴、開宴後の食事をしながらの談笑タイム、青木さんとスタッフのツーショット



札幌と合唱団による第9（提供／札幌交響楽団）

座席は最前列、コンサートマスター大平まゆみさんの目の前、というか真横に観る位置に陣取りました。驚いたことに、大平まゆみさんの左隣りから3名のヴァイオリン

12月14日（土）に札幌コンサートホールキララにて尾高忠明氏指揮による札幌のベートーヴェン交響曲第9番「合唱」の演奏を聴いてきました。

札幌の第9を鑑賞して

リニスト、さらに真正面のチェリストの武田芽衣さんまで女性団員が指揮台を取り囲むように配置されていることでした。

綺麗どころに見とれているうちに第1楽章が始まりましたが、最初からテンポが速く全開モードの演奏があつという間に終わりました。特に弦の響きが艶やか、洗練

ケストラの奏者が自らの意志で自由に表現し、楽しんでるようでした。その透き通るような音色はポルタメント奏法的な部分も見られ、美しいだけではありません。豊潤さも感じられました。それなのに全体的に引き締まった演奏となっているのは、尾高氏の統制力の高さ

それなのでしよう。

それに最前列に座っている

でもキララの残響、音の収束感が素晴らしく、とても驚きました。第2楽章は少しテンポが遅めで、弦の響きを重視したような演奏、軽いスタッカートも見られ、歯切れの良さ、リズム感の良さが気持ちよかったです。第3楽章は早めのテンポながら、とても美しいハーモニーが奏でられ、絶品と言えるような演奏でした。第4楽章は冒頭からハードな演奏、歌声も含めキビキビとしたメリハリのあふれる躍動感に溢れたものでした。最後はオーケストラ、合唱が一体となった怒涛のコーダで、これももう快感でしたね。

全体的に端正でストレートな表現を貫いています。今まで聴いてこなかった音色や旋律が聴こえてきて、新しい発見もあつた第9でした。来年は12月27日、28日に尾高氏指揮での演奏が決まっているようですが、年末押し寄せる師走でもあり、より新しい発見と感動的な演奏が期待できるのではないかと思います。

(竹林)



写真：上から前川さんとスタッフのツーショット、サンタのビンゴゲーム、開宴あいさつの西川副会長、開宴の乾杯

随想 本棚の隅から 6

本棚の掃除をしようと大きくて重たい画集を動かしていたら、古い一冊のバイエル教則本が後ろに隠れていた。やれやれ、また私の無駄にした過去を思い出す。

あれはまだ自家用車なんて夢だった長閑な時代に、職場の仲間と融資先の自動車教習所なる処へ行く羽目になった。

運動神経は鈍い、機械には弱い、まったく良くも最後まで頑張ったものだ。なんとか免許証を貰って意気揚々と家に帰ってみたら、なんと私の部屋にピアノがでんと控えている。なんで？ なんで？。そこへニヤニヤしながら父が顔

花束贈呈

ホルン奏者市川正敏さんは、11月末でステージを折ることになりました。札幌くらぶから11月9日(土)B日程終了後花束をお贈りしました。12月1日付で事務局次長に就任されております。



をだして「あのな、人を轢くよりピアノを弾く方が安全だから」と言う、私が退くしかない。これじゃ父が生きている間は車は買えないのだ。夕日を追いかけて海辺のドライブなどと夢見ていたのに。そんなわけで、ピアノ教室にせつせと通ったが、自分が音痴なのを知っただけだった。

一番ピアノを弾いていたのは父だった、たぶん自分が欲しくて買ったのだろう。私に車を買わせないのを口実に母を納得させて、多くの人が私のピアノを利用した。

中でも作曲家志望の青年はお腹を空かせてよく来た、晩御飯を食べさせて彼のピアノの演奏を楽しませて貰った。私の為に作曲してくれた一曲を残したまま、今は何処で何をしているのやら…

長生きをした父より免許証の方を先に無くしてしまった。身分証明書の役にしか立たなかつた免許証だが、幸いなことに助手席に乗せてくれる人に不自由せず、楽しいドライブを堪能させて貰った。

いつの間にかピアノは描きかけのキャンバス置場になっていた。それも数年前滅築の際に処分してしまったので音楽は聴くだけ。

キタラの大ホールで聴くオーケストラは最高だし、小ホールのピアノやカルテットも大好き、孤独

な夜はCDを聴くのも慰めになるけれど、なんと言つても、ビールと音楽は生がいいな。(井上明子)

スタッフの活動報告(10月~12月)

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
10月12日(土) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
担当/佐藤スタッフ

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
10月12日(土) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
担当/佐藤スタッフ

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
10月12日(土) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
担当/佐藤スタッフ

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
10月12日(土) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
担当/佐藤スタッフ

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
10月12日(土) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
担当/佐藤スタッフ

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
10月12日(土) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
担当/佐藤スタッフ

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
10月12日(土) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
担当/佐藤スタッフ

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
10月12日(土) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
担当/佐藤スタッフ

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
10月12日(土) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
担当/佐藤スタッフ

●札幌くらぶXmasパーティーの開催、担当分担等について打ち合せをした。

●札幌くらぶのXmasパーティーの案内発送作業
11月9日(土) 15:00~16:30
札幌四季法律事務所会議室
担当/武藤事務局長他8名
札幌くらぶXmasパーティーの案内チラシの発送作業した。

●JOFc in 仙台(第7回総会)に参加
11月23日(土)~24日
日立システムズホール仙台(旧仙台市青年文化センター)他
JOFc in 仙台13総会、懇親会など、2日目は被災地ツアーに参加した。

●第8回札幌くらぶ運営会議開催
11月29日(金) 18:00~20:00
エルプラザ2階16人用会議スペース
担当/武藤事務局長他13名
札幌くらぶXmasパーティー、会報「札幌くらぶ」第65号記事執筆担当、楽員のインタビュー、札幌

●第7回札幌くらぶ運営会議開催
10月22日(火) 18:00~20:00
札幌コンサートホール2F大会議室
担当/西川副会長他10名
会議では、会報「札幌くらぶ」第65号編集企画、札幌くらぶXmasパーティーなどについて協議が行われた。

●第7回札幌くらぶ運営会議開催
10月22日(火) 18:00~20:00
札幌コンサートホール2F大会議室
担当/西川副会長他10名
会議では、会報「札幌くらぶ」第65号編集企画、札幌くらぶXmasパーティーなどについて協議が行われた。

●第7回札幌くらぶ運営会議開催
10月22日(火) 18:00~20:00
札幌コンサートホール2F大会議室
担当/西川副会長他10名
会議では、会報「札幌くらぶ」第65号編集企画、札幌くらぶXmasパーティーなどについて協議が行われた。

●第7回札幌くらぶ運営会議開催
10月22日(火) 18:00~20:00
札幌コンサートホール2F大会議室
担当/西川副会長他10名
会議では、会報「札幌くらぶ」第65号編集企画、札幌くらぶXmasパーティーなどについて協議が行われた。

●第7回札幌くらぶ運営会議開催
10月22日(火) 18:00~20:00
札幌コンサートホール2F大会議室
担当/西川副会長他10名
会議では、会報「札幌くらぶ」第65号編集企画、札幌くらぶXmasパーティーなどについて協議が行われた。

東京公演鑑賞ツアーなどについて協議が行われた。

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
12月7日(土) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
担当/佐藤スタッフ
藤野、太平、向陵各中学校、3校84名を招待した。

●'13札幌くらぶXmasパーティー開催
12月7日(土) 17:30~19:30
テラスレストラン・Kiara
担当/定政事務局次長他5名
会員、札幌関係約40名が参加し、楽譜支援金贈呈、楽員からコンサートの案内、会員が提供した景品でビンゴゲームを楽しんだ。

●札幌くらぶサロン運営会議開催
12月16日(金) 16:00~18:00
エルプラザ2階打合せコーナー
担当/上野スタッフほか4名
第5回札幌くらぶサロンの運営及び6回以降の企画・運営について協議する。

●第9回札幌くらぶ運営会議開催
12月16日(金) 18:00~20:00
エルプラザ2階12人用会議スペース
担当/武藤事務局長他11名
会報「札幌くらぶ」第65号記事執筆、札幌東京公演鑑賞ツアーの案内と会報発行時期、楽員のインタビュー、札幌くらぶサロン、中学生招待事業について協議が行われた。(事務局長 武藤義典)

●第9回札幌くらぶ運営会議開催
12月16日(金) 18:00~20:00
エルプラザ2階12人用会議スペース
担当/武藤事務局長他11名
会報「札幌くらぶ」第65号記事執筆、札幌東京公演鑑賞ツアーの案内と会報発行時期、楽員のインタビュー、札幌くらぶサロン、中学生招待事業について協議が行われた。(事務局長 武藤義典)

●第9回札幌くらぶ運営会議開催
12月16日(金) 18:00~20:00
エルプラザ2階12人用会議スペース
担当/武藤事務局長他11名
会報「札幌くらぶ」第65号記事執筆、札幌東京公演鑑賞ツアーの案内と会報発行時期、楽員のインタビュー、札幌くらぶサロン、中学生招待事業について協議が行われた。(事務局長 武藤義典)

●第9回札幌くらぶ運営会議開催
12月16日(金) 18:00~20:00
エルプラザ2階12人用会議スペース
担当/武藤事務局長他11名
会報「札幌くらぶ」第65号記事執筆、札幌東京公演鑑賞ツアーの案内と会報発行時期、楽員のインタビュー、札幌くらぶサロン、中学生招待事業について協議が行われた。(事務局長 武藤義典)

●第9回札幌くらぶ運営会議開催
12月16日(金) 18:00~20:00
エルプラザ2階12人用会議スペース
担当/武藤事務局長他11名
会報「札幌くらぶ」第65号記事執筆、札幌東京公演鑑賞ツアーの案内と会報発行時期、楽員のインタビュー、札幌くらぶサロン、中学生招待事業について協議が行われた。(事務局長 武藤義典)

●第9回札幌くらぶ運営会議開催
12月16日(金) 18:00~20:00
エルプラザ2階12人用会議スペース
担当/武藤事務局長他11名
会報「札幌くらぶ」第65号記事執筆、札幌東京公演鑑賞ツアーの案内と会報発行時期、楽員のインタビュー、札幌くらぶサロン、中学生招待事業について協議が行われた。(事務局長 武藤義典)

●第9回札幌くらぶ運営会議開催
12月16日(金) 18:00~20:00
エルプラザ2階12人用会議スペース
担当/武藤事務局長他11名
会報「札幌くらぶ」第65号記事執筆、札幌東京公演鑑賞ツアーの案内と会報発行時期、楽員のインタビュー、札幌くらぶサロン、中学生招待事業について協議が行われた。(事務局長 武藤義典)

編集後記

◆定期や名曲の札幌くらぶデスクに立ち寄ってくださる方の中に時々本州方面からの方が…。出張や学会で来て、何かいいコンサートはないかと探していらっしゃった、あるいはわざわざこれを聴きに来た、という方も！ 嬉しいことです。(静)

◆JOFcの総会で仙台へ。震災から2年9ヶ月。でも、閑上地区の現状を生で見ても、まだまだの思いが…。そこに暮らす人々の心中、察するに余りあります。(み)

◆札幌に冬が訪れ、藻岩山の登山道も真っ白な雪道に固まり、とても綺麗に登りやすくなりました。そんな時に山頂で聴きたくなるピツタリの曲ってなんだろう…(上野)

◆札幌のシンボルの藻岩山、私が参加しているFacebookの私のページのカバー写真に月々模様を替える藻岩山全体の写真を使用している。いまは初冬の雪に覆む山に曇り空の隙間から日の光が差し込む情景を使用している。あつという間に1年が過ぎようとしている。(武)